

# 令和3年度（中学生）出前授業等を振り返って

平 成司

## 1 令和3年度 出前授業の実績

授業・講義の形態	題 材	実施日	人数	学級数
① 千城台西中学校 特別支援学級	伊能忠敬 千葉市を測る ～測量日誌と測量体験～	10/28	24名	1(3)学級
② 幸町第二中学校 2年	備えあれば憂いなし ～千葉市が災害にみまわれたら～	3/2 3/4	129名	4学級
③ 幸町第二中学校 1年	源頼朝に賭けた！・・・千葉常胤の 思惑	3/16 3/18	117名	4学級

計 170名

(\*他に1校「備えあれば憂いなし」2年生80名 がコロナ関係で中止)

## 2 出前授業 実施後の分析

① 千城台西中学校「伊能忠敬 測量日誌と測量体験」の授業では、特別支援学級という事情を踏まえて測量の体験を中心として授業を展開した。学校の配慮で2コマ連続授業にしていただけで、時間に余裕をもって活動することができた。授業の反省として、振り返りの場面においてもっと一人一人の活動に目を向けたコメントができれば良かったと思う。

② 幸町第二中学校2年生では、新採2年目の教科担任とのT.T.を行った。学習内容に関わる部分をエドゥケーターがT1として担い、機器操作や発表する生徒の指名等を教科担任がT2として行った。生徒とのコミュニケーションが取りやすくなることや、発表内容をある程度予測できる生徒を指名できることなど、教科担任の存在はありがたかった。また生徒がリラックスして授業に臨むことができていたようにも感じた。

「出前」の講師と教科担任とが共同で生徒の前に立つことで、「この授業をともに行っている」という感覚を持ってもらうことができる。出前授業としてこの形態での授業を積極的に推進していくとよいと考える。

③ 幸町第二中学校1年生の授業では「千葉氏もしくは千葉常胤についてよく知っている生徒はごく少数」というのが現実だった。これについては、他の中学校においても同じような実態ではないかと思う。そこで、千葉氏については明瞭・簡潔に触れつつも、学習内容をしっかり伝えることを意識した。千葉氏関連を大きく扱うなら、あらためて「千葉氏に関する授業」として行うのがよいと思う。

◆ 結果として、中学校普通学級から出前授業の依頼は多くなかった。要因として考えられることは

\* 授業や定期テストなどで年間計画が詰まっていて、出前依頼の余裕がない。

\* 「千葉市、千葉県に特化した内容の授業」をするタイミングがない、わからない。

\* 出前授業を行ってもらっても、その後の活用法や評価に対する不安がある。

\* ふだんから社会科を専門とする教科担任が授業をしているので、必要を感じない。

等が考えられる。

中学校は受験を控えているため簡単に解決できない部分もあって難しいと考えられるが、「それでもぜひ依頼してみたい!」と思ってもらえるような充実した内容のプログラムを開発し、提供していくことが大切なのだと思う。現在公開しているプログラムの修正・改良に加えて、新たに1～2本を追加して「千葉市(の歴史や発展)」についての知見・理解を広げることのできる授業内容を、千葉市の生徒に提供出来たらよいと思う。

### 3 授業の事前準備と学校との打合せ

- 授業の事前準備は、学校の負担が多くなりすぎないように、授業展開案や使用予定の資料はこちらでほとんど作成した。その中でも、一部は学校の世話になる部分をお願いすることで、ともに作り上げるという感覚持ってもらえるよう考えた。来年度以降も効率的・計画的に進められるとよい。
- 学校との打ち合わせ時期は、2～3週間前くらいが適当と思われる。打ち合わせ時期が早すぎると学校側の準備が整っていない場合があり、遅すぎるとその後の双方の作業が間に合わなくなる可能性が残る。
- 体験活動や作業を主にした授業では、時間が延びることを想定しなければならない。事前打ち合わせではよく相談して、当日の日程を検討してもらえると良い。
- どこの学校にも丁寧に対応していただき、要望した通りの授業の環境が用意されていた。千城台西中学校はプレ授業を行ってあらかじめ意欲を高めてくださり、当日の生徒のグループのメンバー構成等まで配慮していただけた。幸町第二中学校では、とくにT.T.の具体的な打ち合わせをする時間をとれなかったにもかかわらず、授業の流れを損なうことなく進めることができた。また、コロナで中止になってしまった学校においても、多くの資料画像が指示通りにスライド化されていた。各学校の協力に感謝申し上げたい。

### 4 学校との連絡や交渉について

- 勤務日の関係で、自分の不在時に学校やその他機関の担当の方から連絡をいただきながらその返事をするまで数日を要してしまうことがあった。事情を説明して御理解をいただいたが、これでは不誠実であると大いに感じた。来年度はこうしたことがないように館内の連絡体制を整えたいと思う。自分自身としても、勤務日には朝一番にメールの確認を行うなどを意識して心がけていきたい。

### 5 エducatorとして

- 私達エドゥケーターが行う出前授業は「千葉市の子どもたちに対して、公開したプログラムを用いながら、千葉市（県）および千葉氏に関わる内容を紹介して、千葉市の将来を担う世代の成長に役立ててもらおう」というものだと考えている。私たちの心がけとして大切なことは「子供たちが意欲的に、興味をもって、郷土の歴史や発展について理解を深める時間を提供すること」なのだと思う。授業案を考えていると、時々授業の見映えを意識してしまうことがあるけれど、「子供たちのために、どういう方向からアプローチするのがよいだろうか？」を考えることが第一である。このことを肝に銘じて作業に専念したいと思う。

### 6 授業後の生徒の感想(部分・略)例

- 伊能忠敬と同じやり方で測量をしたことが楽しかったです。またチャンスがあれば出前授業を受けてみたいです。
- 災害に備えるために何が一番大切なのかを、先生やまわりの友達の意見を聞くことができて良かった。千葉市が取り組んでいることがたくさんあることが印象に残った。
- 普段教わらない人から教えていただいて、写真やスライド、プリントを使っていてわかりやすい授業でした。災害の危険さが良くわかりました。もっとふだんからハザードマップを見ていきたいと思った。
- 千葉常胤が源頼朝の味方について理由を考えることが楽しかったのと、千葉常胤について何も知らなかったので知ることができて良かったです。
- 将軍や御家人の関係をキーワードを並べて班で話し合ったことが印象に残った。習ったのが少し前だったので、忘れていたのを思い出しながら話した。